

播磨信義教授略歴

- 1942年6月6日 大阪府堺市に出生
- 1967年3月 京都大学法学部卒業
- 1969年3月 京都大学大学院法学研究科修士課程修了
- 1972年3月 京都大学大学院法学研究科博士課程単位修得満期退学
- 同年4月 日本学術振興会奨励研究員
- 1973年5月 京都大学法学部助手
- 同年12月 山口大学教育学部助手
- 1975年4月 山口大学教育学部講師
- 1976年7月 山口大学教育学部助教授
- 1978年10月 国内留学（東京大学，～1979年3月）
- 1982年9月 全国憲法研究会理事（～1983年8月）
- 1987年9月 神戸学院大学法学部教授
- 1989年10月 全国憲法研究会理事（～1990年9月）
- 1993年4月 在外研究（イギリス・ロンドン大学，～1994年9月）
- 1999年4月 神戸学院大学法学部長（～2001年3月）
- 2002年4月 国内留学（名古屋大学）
- 2002年8月 逝去

播磨信義教授主要著作目録

I 著 書

1973年

戦後における京都府政の歩み 汐文社（共著, 「第4章 教育と文化・住民の福祉を高めるために」を川口是と執筆）

1975年

現代日本の法学 法律文化社（共著）

1976年

判例と学説1 憲法 日本評論社（共著, 阿部照哉編, 「23 労働基本権」執筆）

1987年

検証・日本国憲法—理念と現実 法律文化社（共著, 憲法教育研究会編, 「第1章第2節 戦後日本憲法史」, 「第5章 憲法の擁護」執筆）

憲法をいかす努力—戦後山口の憲法 四季出版

1988年

仁保事件・その風化を許すまじ—学生による冤罪研究

四季出版（監修, 山口大学教育学部社会科学法律室編著）

続・憲法をいかす努力—平和と自由と平等を守る人々の記録

四季出版（編著）

1989年

憲法最前線—権力の仕掛けと仕掛け返し 法律文化社（共著, 「第2章第1節 憲法教育の盲点」執筆, 川口 是編著）

1990年

どうなっている!? 日本国憲法—憲法と社会を考える—

法律文化社（木下智史と共編著）

人権の現代的諸相—阿部照哉教授還暦記念 有斐閣（共著，「人権をまも
るということ—仁保・冤罪事件における真実の伝播過程をとおして」執筆，
佐藤幸治・初宿正典編）

1992年

仁保事件救援運動史—命と人権はいかにして守られたか 日本評論社
憲法をいかす努力（改訂版） 晃洋書房

1993年

ルポルタージュ 人権を守った人々—仁保冤罪事件，支援者の群像
法律文化社

1995年

ルポルタージュ 人権を守る人々—英国の冤罪事件と救援運動
法律文化社

1996年

どうなっている!? 日本国憲法—憲法と社会を考える—（改訂版）
法律文化社（木下智史と共編著）

憲法をいかす力とロマン 文理閣（共著，「憲法をいかす努力—川口 是
先生研究」執筆，川口 是先生を囲む憲法・教育研究会編）

1997年

神姫バス版 憲法をいかす努力—お母さんバス・ガイド裁判奮闘記
文理閣

1998年

憲法をいかす努力—甲子園の名門校であった解雇事件 神戸弘陵高校・浅
野事件版 文理閣

2002年

新・どうなっている!? 日本国憲法—憲法と社会を考える—
法律文化社（木下智史・脇田吉隆・渡辺 洋と共編著）

Ⅱ 論 文

1971年

ワイマール憲法における社会化条項（156条）の研究—その形成過程の検討を中心として
法学論叢89巻6号

1972年

憲法運動と憲法理論—若手研究者の一問題提起
ジュリスト515号

1975年

ハンガリー・ソヴェト共和国憲法（1919年）序説
山口大学教育学部研究論叢24巻第1部（人文科学・社会科学）
憲法研究者と「憲法教育」
日本教育法学会年報4号
護国神社への自衛官合祀拒否訴訟について—政教分離原則と妻の「祭祀権」
を中心に
日本法社会学年報28号

1977年

ハンガリー・ソヴェト共和国憲法（1919年）におけるいわゆる「社会化」
について
山口大学教育学部研究論叢26巻第1部（人文科学・社会科学）
日本国憲法制定過程における“より民主的”制憲コース—小林直樹氏の
「押しつけ憲法」論批判の批判的検討を通して
山口大学教育学部研究論叢27巻第1部（人文科学・社会科学）

1979年

最高裁判所裁判官国民審査制度の今日的意義
法と民主主義140号
松本治一郎の「日本連邦共和国」構想—日本国憲法制定史研究の一資料
（含資料）
法律時報51巻12号
自衛官合祀違憲，山口地裁判決の考察

山口大学教育学部研究論叢29巻第1部（人文科学・社会科学）

1980年

日本国憲法制定過程における「日本国民の自由に表明せる意思」—その

1 憲法草案作成・総選挙を中心に

山口大学教育学部研究論叢30巻第1部（人文科学・社会科学）

1981年

山口県における憲法動態の分析—山口県議会における「靖国神社公式参
拝請願」反対運動を中心に

地域研究山口4号

80年代改憲論に現われた憲法制定過程論

法と民主主義156号

1982年

ボストン地区の反核運動

日本の科学者17巻10号

教員養成系学生の憲法意識と憲法教育の課題

法律時報54巻10号

1983年

日本国憲法制定過程における「日本国民の自由に表明せる意思」—その

2 憲法審議・採択の方法を中心に

山口大学教育学部研究論叢32巻第1部（人文科学・社会科学）

1984年

極東委員会と日本国憲法の制定過程—極東委員会7・2政策決定、「新日本
国憲法の基本原則」を中心に

山口大学教育学部研究論叢33巻第1部（人文科学・社会科学）

1985年

極東委員会における日本国憲法草案審議—「联合国最高司令官との協議」
をめぐって

山口大学教育学部研究論叢34巻第1部（人文科学・社会科学）

山口市公安条例とデモ行進の権利

地域研究山口9号

極東委員会における日本国憲法草案審議（その2）—第3委員会報告，ソ
ヴェト提案を中心に

山口大学教育学部研究論叢35巻第1部（人文科学・社会科学）

1986年

日本国憲法草案の修正をめぐる諸力（その1）—第90帝国議会を中心に

山口大学教育学部研究論叢36巻第1部（人文科学・社会科学）

1987年

- 自衛官合祀事件訴訟と信教の自由 別冊 法と生活
自衛官合祀事件訴訟と信教の自由（その2） 地域研究山口11号
日本国憲法制定過程における極東委員会の活動 歴史評論446号

1988年

- 憲法条文中心主義教育への疑問 生活教育40巻5号

1989年

- 夫婦・親子別居の配転拒否—徳曹岩本事件訴訟
神戸学院法学19巻2号

1991年

- いのち（人権）を守った人々（1）—仁保冤罪事件，支援者の群像
神戸学院法学21巻2号

1992年

- 政治資金規正法「収支報告書の公開」に関する憲法的考察
神戸学院法学21巻4号
いのち（人権）を守った人々（2）—仁保冤罪事件，救援運動の中心的担い
手たち 神戸学院法学22巻1号

1994年

- ルポ ウォッチング・英国の冤罪事件と救援運動事情
法と民主主義292号

1995年

- 英国の近年の主要な冤罪事件とその救援運動 神戸学院法学25巻2号

1996年

- 英国の冤罪事件と救援運動あれこれ 日本の科学者31巻11号

2000年

- 冤罪事件の現実と構造—社会過程としての人権 法の科学29号

2001年

-

Ⅲ そ の 他

1977年

有倉遼吉編『別冊法学セミナー No. 30

[新版] 基本法コンメンタール 憲法』(第50条, 52条執筆)

1980年

地方公務員の労働基本権—東京都教組判決(最大判昭和44年4月2日)

芦部信喜編『別冊ジュリスト No. 69 憲法判例百選Ⅱ』

公法学の動向 神田文人「戦後初期の統一戦線運動」

法律時報52巻7号

1981年

なぜ我われは、靖国神社公式参拝に反対するか—1980年9月山口県議会
における意見陳述

地域研究山口4号

1982年

80年代改憲勢力の策略—地方議会の「自衛隊意見書」決議

日本の科学者17巻3号

(書評) 佐藤昌一郎 “地方自治体と軍事基地”

長谷川正安編『現代人権論(公法学研究1)』(法律文化社)

1983年

今日の学生の政治的行動力について—「徴兵制反対。しかし行動はしない。」
のは何故か

地域研究山口6号

1985年

連休に埋もれる憲法記念日—政府・自治体は記念行事に熱意を

朝日新聞1985年4月12日朝刊

1986年

有倉遼吉・小林孝輔編『別冊法学セミナー No. 78 [第3版] 基本法コン
メンタール 憲法』(第50条, 52条執筆)

1988年

地方公務員の労働基本権—東京都教組判決（最大判昭和44年4月2日）

芦部信喜・高橋和之編『別冊ジュリスト No 96 憲法判例百選Ⅱ
[第2版]』

憲法講義に現実の視点を—学生主導の企画で深めた内容

朝日新聞1988年5月3日朝刊

1991年

なぜコピーは許されないのか

朝日新聞1991年9月23日朝刊

1992年

追悼 川口先生を偲んで

法の科学20号

1996年

地方公務員の労働基本権—東京都教組判決（最大判昭和44年4月2日）

芦部信喜・高橋和之編『別冊ジュリスト No 131 憲法判例百選Ⅱ
[第3版]』

2000年

地方公務員の労働基本権—東京都教組判決（最大判昭和44年4月2日）

芦部信喜・高橋和之・長谷部恭男編『別冊ジュリスト No 155 憲法
判例百選Ⅱ [第4版]』

2001年

新ガイドライン体制の展開とアジア・日本の平和—資料集 非核「神戸方
式」・非核の港湾づくり

神戸学院大学共同研究（木下智史，和田 進，梶本修史と共同）

※著作の整理に当たっては，故人の問題関心の軌跡を辿りやすいよう，分類
の精確性に比し，発表年次を重視することとした。